



第34回

教員展

〔学科教員による作品展〕

ごあいさつ

四国大学文学部書道文化学科は、「書道に親しむ」から「書道を楽しむ」、さらに「書道を活かす」へと発展させ、書道文化の専門的探求を目指すユニークな学科です。

書道文化学科の学生たちは、書道の「技術」「歴史」「理論」などを探求していく中で書道文化を理解し、また書の作品制作を通して自己を表現することを学ぶと共に、新たなことを創造する発想力を身につけていきます。その力は書道以外の分野でも応用範囲が広く、卒業後には様々な職業の中でそれを活かして活躍しています。

私たち教員も、教育と研究の責務を果たすべく日々取り組んでいます。この展覧会は、学科の専任と非常勤の教員が書法研究発表の場として年一回開催し、今年で 34 回目を迎えました。今回はコロナ禍のために規模を縮小して学内展示のみにしていますが、大学HPでの発表とこのパンフレット送付によって、学外の多くの皆様にも鑑賞していただくことができます。なにとぞ御高覧のうえ、御教示賜りますようお願い申し上げます。

(出品者一同)

会期 令和2年 8月13日(木)～8月22日(土) 9:00～18:00
(ただし、8月15日(土)・16日(日)は閉館)

会場 四国大学 書道文化館 1F ギャラリー

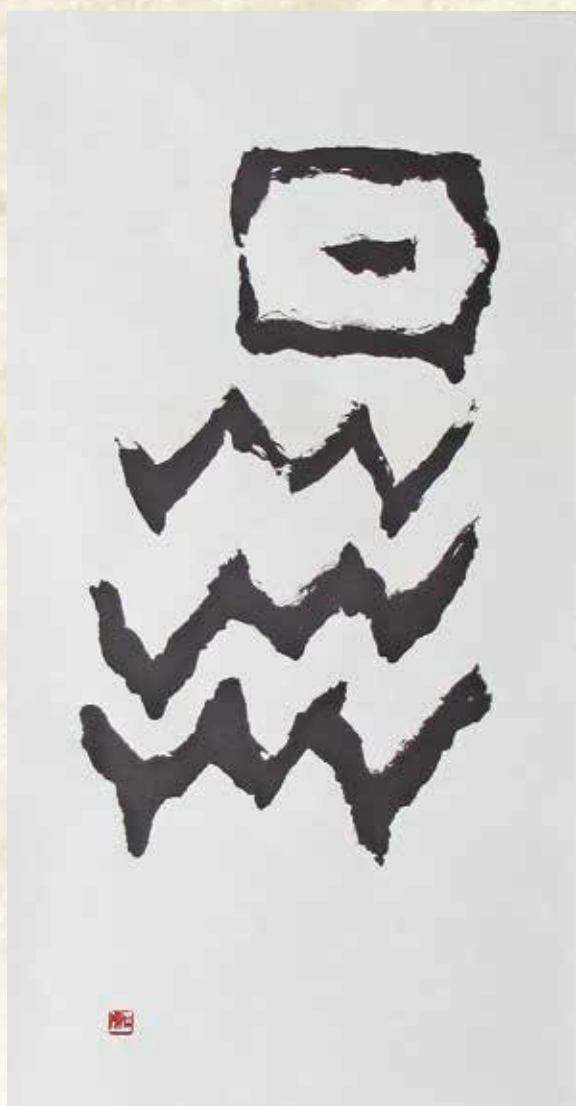
主催 四国大学 学際融合研究所言語文化研究部門

(今年度題字揮毫 辻 尚子)

太^{おお}
田^た

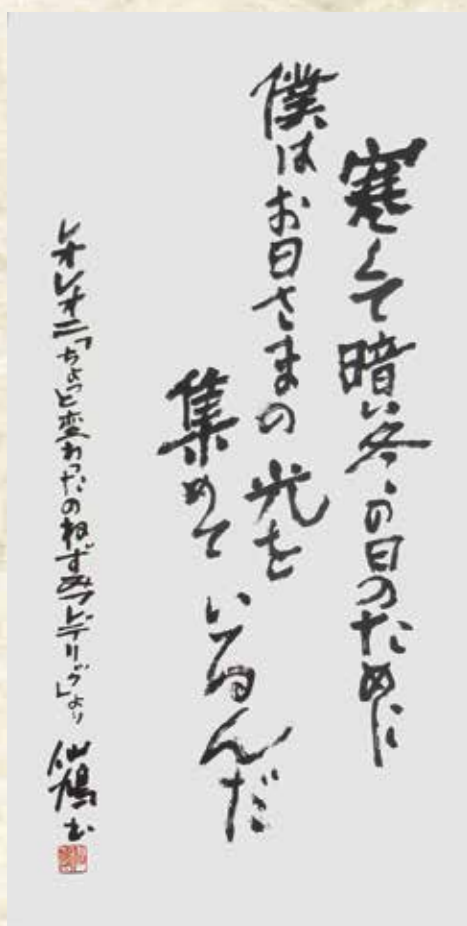
剛^{つよし}
(仙鳩^{せんきゅう})

甲骨文「昔」



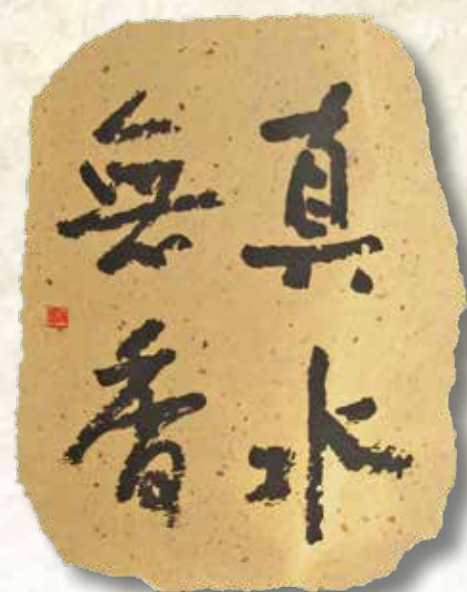
144×76

芸術論 (レオ・レオニの言葉)



68×35

「真水無香」



42×33

辻^{つじ}

尚^{たか}

子^こ

(紅雲^{こううん})

「杜甫詩」



寺憶曾遊處 橋憐再渡時 江山如有待 花柳更無私
野潤煙光薄 沙暄日色遲 客愁全為減 捨此復何之

森^{もり}

上^{かみ}

洋^{よう}

光^{こう}

「盤蘇認徳」



151×83

黒^{くろ}
田^だ
賢^{けん}
一^{いち}

「与謝野晶子の歌」

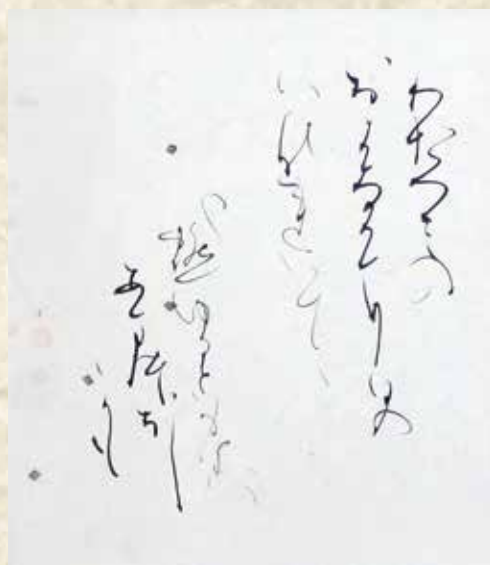
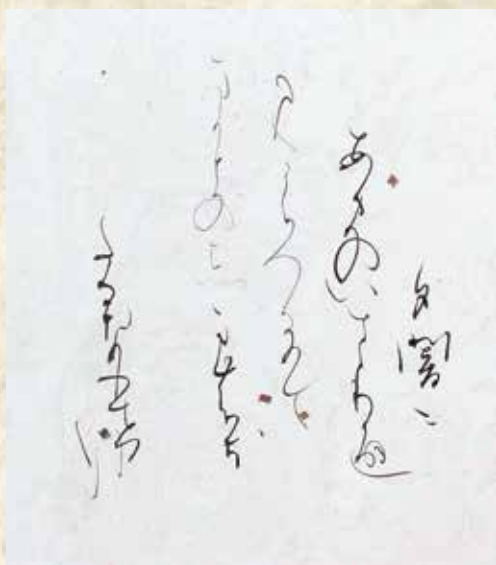


21×18

山国の空に
あるなり天の川
吹く秋風の
つばさの如く

たのおか
田ノ岡 だい
大 雄 ゆう

蛍1 (部分)



21×18.5×2

夕闇に
あまの漁り火
見えつるは
まがきの島の
蛍なりけり

わだつみの
沖なかにひの
はなれいで、
燃ゆと見ゆるは
天つ星かも

蛍2



70×173

夏草のし
げみが下の
むれ水
ありと知
らせて行く
蛍かな

渡^{わた}

邊^{なべ}

周^{しゅう}

一^{いち}

(星^{せい}舫^{ほう})

「顯光」



6.5×6.5

「還翦」



5.4×5.4

「書爲心畫」



5.5×5.5

「應物無窮」



6×6

上^{うえ}
田^た

普^{ひろし}

「行」



44.5×35

鹿^か
倉^{くら}
壮^{たけ}
史^し
(碩^{せき}斎^{さい})

「永壽」



23.9×24.6

黒^{くろ}木^き知^{とも}之^{ゆき}

「蔬食」(陸游の詩)

今年徹底貧 不復具一肉 日高對空案 腸鳴轉車軸
春薺忽已花 老筍欲成竹 平生飯蔬食 至此亦不足
孰知讀書却少進 忍飢對客談堯舜 但令此道龐有傳 深山餓死吾何恨



今年徹底貧 不復具一肉 日高對空案 腸鳴轉車軸
春薺忽已花 老筍欲成竹 平生飯蔬食 至此亦不足
孰知讀書却少進 忍飢對客談堯舜 但令此道龐有傳 深山餓死吾何恨

小^こ
竹^{たけ}
正^{まさ}
高^{たか}

「ありがとう」

(東田直樹の言葉)



35×67

松^{まつ}
村^{むら}
茂^{しげ}
樹^き

「朱竹園并記」



27×24×2

【口語訳】 子供の頃、実家の玄関に「朱竹園」が掛けてあった。それは私が雑誌で「朱竹園」色紙を売出す広告を見つけ、父親に頼んで買ってもらったのだ。そもそも父親はこのようなものに何ら興味がなかったが、その広告の中に「家運隆盛」の四文字を見るや、すぐ購入に同意した。その「朱竹園」は印刷品ではあったが、額に入れて玄関の壁に掛けるとなかなかいいと思ったものだ。図上には「清風有平安」と題されていたと記憶しているが、

その時、私はこの句の意味がわからず、多分「家運隆盛」の意味だろうと思っていた。後（数十年後）私は、朱竹は蘇東坡がある時画興が急に起こったものの、机には墨がなく朱砂しかなかったため、朱砂で画いたのが始まりであったと知った。さすればそもそも朱竹は文人の当意即妙で成されたもので、「家運隆盛」とは何の関係もなかったのだ。実際、家運は何ら隆盛しなかった。でも私はなぜか今日に至っても実家の玄関に掛けられていた「朱竹園」を思い出すのである。

袁^{みの}
毛^も
政^{まさ}
雄^お
(个庵^{かあん})

「處其厚」(『老子』語)



68×68

川^{かわ}
尾^お
朋^{とも}
子^こ

Live



28.7×23.7

出品目録

太 田 剛 (仙鳩) 〈教授〉

甲骨文「昔」

芸術論 (レオ・レオニの言葉)

「真水無香」

「善戦者不怒」(『老子』語)

陶芸書「風」

陶芸書「龍」

辻 尚 子 (紅雲) 〈教授〉

「杜甫詩」

「山上憶良の歌」

「坂村真民の詩-貧しくとも-」

森 上 洋 光 〈教授〉

「鰲鯀懿徳」

黒 田 賢 一 〈客員教授〉

「与謝野晶子の歌」

田ノ岡 大 雄 〈常勤講師〉

「蛍1」(在原業平・紀友則・
伊勢・紀貫之の歌)

「蛍2」(後村上天皇の歌)

「蛍3」(山口誓子の句)

渡 邊 周 一 (星舫) 〈常勤講師〉

「刻鶴圖龍 斷魂」(『書譜』語二種)

「應物無窮」(『莊子』語)

「還翦 顯光」(『南史』語二種)

「書爲心畫 四海寧」

上 田 普 〈講師〉

「行」

鹿 倉 壮 史 (碩斎) 〈講師〉

「永壽」

黒 木 知 之 〈講師〉

「蔬食」(陸游の詩)

小 竹 正 高 〈講師〉

「ありがとう」(東田直樹の言葉)

松 村 茂 樹 〈講師〉

「朱竹図并記」

蓑 毛 政 雄 (个庵) 〈講師〉

「處其厚」(『老子』語)

川 尾 朋 子 〈特認教授〉

Live



〒771-1192 徳島市応神町古川

四国大学

学際融合研究所 言語文化研究部門

TEL 088(665)1300

FAX 088(665)8037

ホームページ

<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/gakusai-yugo-labo/lc-dep/>